

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つ の ぶ え

TSUNOBUE

2019年 4月 20日

第 421 号



社会福祉法人
小羊学園

住 所 〒433-8105
静岡県浜松市北区三方原町2709-12

電 話 053-584-3337 FAX 053-585-8488

E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人 稲松 義人

印刷所 アド・アール株式会社



2019年度採用の14名 皆様どうぞよろしくお願ひします！

4月1日、今年も新職員14名に採用
辞令をお渡しした。お一人おひとりが
職場として小羊学園を選んでくださ
り、これから始めようとする小羊学園
での仕事に、不安と希望をもっておら
れることだろう。組織の一員として仕
事をするときには、組織との意向に
沿って仕事をするようになる。確かに
組織のルールやチームワークを乱して
は困るが、新しい力が加わることで、
組織全体が新たにされて、より良い実
践へと展開することを楽しみにしてい
る。聖書は、「心を新たにしてお自分
を変えていただき、何が神の御心である
か、何が善いことで神に喜ばれ、また
完全なことであるかをわきまえるよう
になりなさい。」(ローマ12:2)と教
える。理想を求めて互いに議論し、新
しい試みが展開していくことにおいて
は、組織のトップである理事長も、就
職したばかりの新職員も同じでありた
いと思っている。

今年も新しい仲間が与えられたこと
を心から感謝したい。

稲松義人

2018年度 小羊学園研究発表会 優秀発表

「思いを共有することの大切さ」

～Yさんに穏やかな生活を～

支援センターわかぎ 生活支援員 本宮 晃裕

2月23日に聖隷クリストファー大学において、2018年度小羊学園研究発表会が開催されました。法人内で6題の発表があり、優秀賞を受賞した発表を報告します。



本宮 晃裕 さん

【ケース概要】

対象者…Yさん、男性 58歳 障害支援区分6、療育手帳…A 障害名…知的障害 生活歴…昭和53年に、若樹学園に入所。以降も継続して生活。わかぎは4年前に建て替えられ、生活棟内は自由に行き来できませんが、その他は施設されており、活動領域に制限がありません。建て替え以前とは生活環境が大きく変化しています。

【生活の様子】

発語は特定単語のみで、ジェスチャーを交え、思いを伝えてくるため理解しにくいです。余暇時間は、棟内でタオルたたみをして過ごすことが多く、支援員との関わりも好きなのですが、また、日中活動の洗濯たたみや行事が好きなのですがありません。しかし、生活の中でこだわりが多く、思い通りにならないと不穏になり、他者とのトラブルにまで発展してしまうことがあります。

Yさんのこだわりは多くありますが、一例として、特定利用者の衣類を気にし、脱がしてしまうことや、施設されている扉を蹴る、強引に開けようとする等、思いが通るまで訴えを続けることがあります。

Yさんが、なぜこだわりを見せるのかを探り、原因を取り除いていくことで、Yさんが穏やかに生活できる日々が増えるよう力になれたらと思います。今回取り上げました。

【実践 1】

Yさんが何にこだわりを見せるのかを記録に残しました。また、こだわったきっかけや目的を推測すること、Yさんの行動の想いを探り、氷山モデルで表しました。こだわりは多くありますが、今回は不穏になってしまふことが多く見られる、男性棟の電子扉と脱衣場の扉の2点に焦点を絞りアプローチしました。

まずは電子扉についてです。電子扉が開放されていることで、活動領域は広がりますが、開放できていない理由としては、それらの時間帯に他利用者に対しての必要な支援があり、広いエリア全体の把握への人員を割くことができないためです。また、電子扉に対してのこだわりが多く見られる時間帯は、朝食後、昼食後、午後の活動後です。時々朝の7時前にこだわる様子も見られました。電子扉に対するこだわり時のアピール内容として「開けて欲しい」「食堂準備がしたい」「出勤者が気になる」等が挙げられます。また、食後、食堂内に残っている他者が気になるためか、棟へスムーズに戻れず、その後閉まってしまふ電子扉へのこだわりの延長で、歯磨き支援を拒否し、さらに不穏が増してしまふケースもありました。

次に、食後の生活の流れをスムーズにするため、歯磨きがYさんの生活の中での楽しみに繋がればと考え、味付きの歯磨き粉を提供しました。すると興味を示し、それがきっかけとなり歯磨き支援への拒否も減り、今ではYさん自ら食後早めに棟へ戻り、棟内で余暇時間を過ごすことも見られ、この時間帯での電子扉へのこだわりは減りました。

また、歯磨き粉だけでなく、職員が多く関わることでYさんの行動の変化が見られた気がします。



*図1

次にYさんの過去の研究発表での取り組みを参考に、出勤者が気になるYさんへ視覚的に分かりやすいよう、棟内に男性棟出勤者の勤務表を写真入りで作成し、掲示しました。(*図1) 掲示前は、電子扉の外にある支援員のスリッパを手当たり次第並べている行動が見られましたが、勤務表と一緒に確認することで、出勤者が分かり安心に繋がったためか、スリッパを並べる

行動が始ど見られなくなり、出勤者が気になる訴えでの電子扉へのこだわりは減りました。

次に脱衣場の扉についてです。脱衣場の扉は浴室と直結しているため、施錠されています。脱衣場内には、Yさんが余暇時間、居間にて行うタオルたたみ一式が入っており、タオルは入浴時に入所者が利用します。Yさんから、たたみを行いたい訴えがある際、支援員が提供していますが、提供後に扉をそのまま開けておいて欲しいと訴えることもあります。しかし、他利用者の安全に配慮するため、閉めておきたい支援員側と、開けておきたいYさんなどで思いが異なり、不穏へと発展してしまうことが見られました。表れとして、Yさんはたたみ一式を自由に取出したいことと、たたみ終えたタオルを脱衣場内に片付けるまでは、扉を開けておきたいのではないかと考えました。そのため、たたみ一式の保管場所を鍵のない居間クローゼットへ変更しました。鍵のない場所へ変更することで自由に出入り出すことができ、タオルをたたみ終えてから脱衣場内へ片付ける流れも作ることで、タオルを原因とした脱衣場の扉へのこだわりはなくなりました。

【実践2】

日々のこだわりの様子を記録に残し



* 図2

てみると、Yさんのジェスチャー等を汲み取る際、各支援員で汲み取る内容が違うことに気付きました。そのため、Yさんのジェスチャーの意味等を支援員間で共有、理解することで、Yさんの思いを受容しやすくなるのではないかと考えました。

具体的な取り組みとして、まずYさんの普段の生活の中でよく使われている、ジェスチャーを写真に取り、収集していきましました。その後、そのジェスチャーの意味等を各支援員に尋ね、まとめ、情報共有しました。（*図2）

収集していく中で、Yさんのジェスチャーや単語の意味はひとつではないということを知ることができました。結果、支援員がYさんの思いを受容しやすくなり、統一した支援を行えるようになりました。また、訴えを聴き入れてもらえることで、不穏へと繋がることも減少しました。

【実践3】

普段、電子扉が閉まっていると気になってしまふYさんですが、扉が閉まっても気にせず過ごしている場面があります。こだわりを見せる時と見せない時の違いについて、支援員間での意見をまとめた結果、心の安定が関係しているのではないかと考えました。

そのため、余暇の充実から心の安定を図ってみる事にしました。具体的な取り組みとして、支援員と関わる機会を増やしたり、活動で楽しんだことがある小麦粉粘土やノートなどを提供してみました。ツールを提供したことで、Yさんから小麦粉粘土やノートの訴えがジェスチャーであり、余暇の楽しみが増えたように思います。また、支援員がYさん含め他の利用者さんとのんびり過ごす機会を設けることで、こだわりを見せることなく穏やかに過ごす様子が見られました。しかし、他者とのトラブルや旅行、外出等への期待感が強くなりすぎると不安感に変わり、電子扉に拘ることが見られました。

【考察】

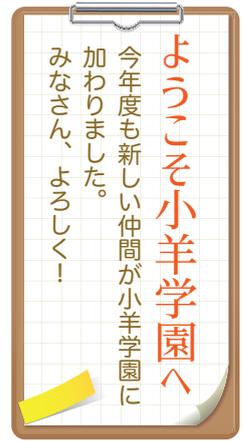
今回の研究の取り組みで、環境面を整えたことにより電子扉や脱衣場の扉などアプローチした点に関してのこだわりは見られなくなりました。そして、Yさんの訴える思いの先には、目

的があることが見えてきました。本人の思いやその先の目的を推測してみると、電子扉が本人の行動を狭める障害物となっており、気になる対象物でもあるが、本人の思いを理解するため支援員間で話し合い、思いを共有することで、チームとして同じ方向性で支援をすることができ、Yさんが不穏に至る前に思いを解決へと導くことで、穏やかに過ごせる日々が増えてきたように感じます。（*図3）

最後に今後の課題としては、次の行事への期待感が強くなりすぎるとそれが不安感に変わってしまう落ち着きが無くなってしまうことです。今後本人が必要としている支援を考え続けていくことや、より豊かな生活を実現させるためのきっかけとして、互いに思いを共有していくことが大切なのではないでしょうか。



* 図3



辞令交付式

2019年度社会福祉法人小羊学園 辞令交付式が4月1日に支援センター わかぎ会議室で執り行われました。新規採用11名と年度途中採用3名、合計14名のフレッシュな職員が小羊学園の仲間入りをしました。交付式ではひとり一人に辞令を渡した後、稲松理事長から「迷える小羊のたどえ」の講話がされました。交付式終了後は、支援センターわかぎ・ひまわりの施設見学を行い、昼食を挟んで午後は、聖隷歴史資料館・小羊ダイケアホーム・三方原スクエアの施設見学を行いました。



理事長からひとり一人に辞令が渡された

- 1.. 配属先
- 2.. 卒業校 / 前職
- 3.. 資格
- 4.. 趣味・特技
- 5.. 自己PR



谷口 正己
たにくち まさみ

①つばさ静岡 事務部門
②運送会社で事務職 ④オートバイでツーリング、映画鑑賞、ジャグリング
⑤これから様々なことを吸収して成長していきたい、小羊学園で活躍するスタッフになりたいです。



平田 光代
ひらた みつよ

①つばさ静岡 のどか
②高齢者施設 ④読書 ⑤利用者様とご家族が笑顔でいる時間が増えるよう頑張りますので、よろしくお願ひします。



松下 美恵子
まつした みえこ

①支援センターわかぎ あかしあ
②クリーニング受付業務 ④音楽を聴く事、歌う事、映画鑑賞、体を動かすこと ⑤何も分からずご迷惑をお掛けしますが、一生懸命頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願ひします。



青木 愛美
あおき あみ

①つばさ静岡 いなほ
②静岡英和学院大学 人間社会学部
③保育士 ④音楽鑑賞、バドミントン
⑤日々、職員や利用者の方々から学び、多くのことを吸収していきたいです。よろしくお願ひします。



青木 裕美子
あおき ゆみこ

①つばさ静岡 つくしA
②老人保健施設 ③介護福祉士 ④登山 ⑤思いやりのある支援が出来るように頑張ります。



八田 千裕
はった ちひろ

①つばさ静岡
②常葉大学草薙キャンパス 保育学部
③保育士 ④映画鑑賞、バスケットボール ⑤日々学びながら利用者との関わり、支援をしていきたいと思ひます。よろしくお願ひします。



市川 野々美
いちかわ ののみ

①つばさ静岡 医務部
②広島大学医学部 ③作業療法士 ④旅行、スポーツ ⑤思いやりのある作業療法士になれるよう頑張ります。どうぞよろしくお願ひ致します。



高島 聖奈
たかしま せいな

①三方原スクエア児童部
②浜松学院大学 現代コミュニケーション学部
③保育士 ④旅行 ⑤笑顔と元気で精一杯がんばります。よろしくお願ひします。



本間 愛加
ほんま あいか

①三方原スクエア児童部
②愛知学泉大学 家政学部 ③保育士
④ダンス、バスケットボール ⑤子どもたちに負けないくらい元気に頑張っています。よろしくお願ひします。



白根 真良
しらね ちから



初瀬 優月
はつせ ゆづき

①三方原スクエア成人部 E棟
②聖隷クリストファー大学 介護福祉専門学校 ④スポーツ、読書、音楽鑑賞、映画鑑賞 ⑤新人ですが、何事にも楽しく一生懸命に取り組みたいと思います。また、利用者さんとも素敵な思い出をたくさん作れるような支援者を目指します。



野口 紗辺瑠
のぐち さへる

①三方原スクエア成人部 E棟
②聖隷クリストファー大学 社会福祉学部 ③保育士、社会福祉士、幼稚園教諭 ④サッカー観戦 ⑤多くの不安がありますが、早く仕事を覚えて自分自身が成長できる場となるよう頑張っています。よろしくお願ひします。

①在宅支援センター ぱびるす
②保育園 ③保育士、幼稚園教諭
④ジブリ映画が好きでよく観ています
⑤楽しく元気に過ごしていきます。宜しくお願ひ致します。



足立 春奈
あだち はるな

①GHひまわり
②日本福祉大学 社会福祉学部 ④歌を歌うこと、いくらでも寝れること
⑤音楽が大好きで、おいしいごはんを食べることも大好きです！みなさまから日々学び成長していきたいと思ひます。よろしくお願ひします！



渥美 みつき
あつみ みつき

①支援センターわかぎ あかしあ
②浜松学院大学 現代コミュニケーション学部 ③保育士 ④ドライブ、細かな作業 ⑤初めまして。社会人1年目「フレッシュ」そして「元気」に一生懸命頑張ります！

先輩職員からのメッセージ

三方原スクエア成人部

富田 美香

「なごみの家」は4月より2名の新人職員を迎えました。私には同じ年頃の娘がいます。彼女達と一緒に仕事をすることで日々、母親の様な気持ちで頼もしく感じたり、時にはハラハラしたりしています。彼女たちと一緒に私もチームも少しずつ成長して行けたらと思います。

つばき静岡

安藤 真由香

始めは慣れない環境の中で不安や戸惑いがありましたが、利用者さんと同様々々事を共有し共感していく中で、見えてくるものが沢山ありました。利用者さんから学ぶ事も多く、自然と毎日が楽しく充実した日々につながっています。利用者さん一人一人に丁寧に寄り添い、思いを受け止め、心を通わせる支援を一緒にしていきましょう。



オリーブの樹 倉庫完成



2019年2月 オリーブの樹に新しい倉庫が完成しました。倉庫の広さは9坪弱。出入り口以外に窓が3カ所、壁には断熱材が施されており、明るく暖かい空間になっております。倉庫は空き缶リサイクル作業の活動班が主に使用していますが、毎年9月に開催しているオリーブ祭りの休憩場所としても活用できればと考えています。

KOITSUJI STAFF

リレートーク

Vol.1 小島 洋一さん

2014年入職 三方原スクエア児童部 主任補佐



Q小羊学園を志した動機は？

日本社会事業大学を卒業後、一般企業に就職したのですが、やはり人と関わる仕事がしたい！と思いこの仕事に携わりました。

Qこの仕事の嬉しいこと、悲しいことは？

子どもたちの育ちを感じられることですね。逆に、自分が向いているのか？これでいいのだろうか？と感じることもありますよ。

Qちょこっとプライベートを教えてください！

結婚して小1の男の子がいます。休日は、アウトドアが好きでキャンプによく行きます。スクエアの子どもたちとも一緒に出掛けていますよ。

Q誰にリレーしましょうか？また一言メッセージを！

アグネスの松井さんにつなぎます。相談の仕事大変だと思いますが、また飲みにいきましょう！

浜松地区新人職員研修

小羊学園では、静岡地区、浜松地区と分かれて新年度の法人採用職員や中途採用職員を対象に研修を行っています。浜松地区新人職員研修は4月、8月、3月の年間3回の研修の中で、小羊学園の理念や施設、事業所で働く職員としての基本的マナー、制度、支援の在り方や組織、チームワークを学びます。段階的に日頃の悩みや苦勞をチームで共有する事や自身の課題と向き合う事を目的とした内容に形を変え、振り返りと新たな課題抽出を繰り返す中で利用者に求められる職員像を描けられる事、また同期との絆を深め、これからの仕事の精神的な活力源となる事も大きな狙いとしています。

(研修部 舟橋)



3月研修時のグループワーク

小羊学園を支える会

2018年度 寄付金報告

2月～3月分 1,062,954円 (48件)
 累計 10,704,608円 (356件)
 多くのお支えに感謝申し上げます

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
 口座名義 社会福祉法人小羊学園
 ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
 口座名義 社会福祉法人小羊学園
 ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。
 下記へご連絡ください。
 小羊学園を支える会事務局(鈴木)
 小羊学園法人本部 ☎ 053-584-3337



入学・進学・就職と生活が大きく変わりする年度初めに、今年も改元発表が日本を一色に染めた。社会構造の改革や大規模災害が多発した「平成」に幕を下ろし、新しい時代「令和」がスタートする今、自らの歩みと照らし合わせてみると、これからどんな人生であるべきか見えてくるかも？

ともあれ、基盤となる国家・世界が戦争・紛争がなく、安寧の時代になることを願わずにはいられない。

今年も暖冬でも桜の開花は例年より遅れ気味。おかげで新入学を満開で迎えられるそうですね。皆様、どうぞお身体ご自愛ください。

(F)